

家族写真

娘・莉音 リオ
息子・遥希 ハルキ
母・悦子

池浦
典子

遥希の部屋

絵はがきや絵を箱から出して見ている母・悦子

莉音がやってくる

莉音 また見てるの？

悦子 莉音、覚えてる？お兄ちゃんが中学生の時に描いた絵。上手でしょう

莉音 修学旅行先で描いた奈良の東大寺でしょ。

悦子 よく覚えてるね

莉音 覚えてるも何も、しょっちゅうこうやって見せてくるじゃん

悦子 そうだった？こっちは高校生の時、函館の五稜郭。

莉音 買ってきた絵ハガキよりうまいんですよ

悦子 よく覚えてるね

莉音 先月、おんなじ会話してるから

悦子 え？そう？それから、これ、大学生の時の旅行で行ったモンサンミツシエル。素敵でしょう？

莉音 こっちはヴェネツィアの運河。ウィーン国立歌劇場。マレーシアのキナバル自然公園、それから

悦子 写真がない

莉音 何？

悦子 写真。これ（1枚の写真を取り）、高校生の、登山へ行く時に撮った写真よね。最近の写真がないのよ。

どこやったかなあ

莉音 どっか別のアルバムにしまっちゃたんじゃない？

悦子 記憶にないのよ

悦子 どんな顔してた？

莉音 しっかりしてよ！お兄ちゃん、泣くよ！

悦子 今、どこにいるんだっけ

莉音 えっと、あ、ほら、これ。（1枚の絵はがきを手に）ピラミッド！エジプト！日付は2週間前だ。まだここかなあ？

悦子 最近、電話、きた？声を聞いてないような気がするんだけど

莉音 あゝ、最近はないかな。ちょっと電波が良くないって、いつだったか言ってたよいつ？

悦子 覚えてないよ

悦子 最後に話したのはいつだったかな

莉音 いつもそんな気にしてないじゃん

悦子 なんだか、すごく気になって

莉音 歳かなあ

悦子 （また1枚手に取る）青の洞窟。そういえば、遥希、小学生の頃、遭難騒ぎ起こして

莉音 そうだっけ？覚えてない。いつ？

悦子 莉音はまだ小さかったから。遥希が、そう、2年生になったばかりで。長野のおばあちゃんちへ行った時に

おじいちゃんと近くの裏山へ行ったんだけど、そこで見つけた洞窟が気に入っちゃって。翌日、一人で山に入っちゃってね

莉音 え、やばくない？

悦子 そりゃもう大騒ぎ！

莉音 お兄ちゃん、なかなか破天荒だな。大丈夫だったの？

悦子 その時はね。大きな怪我もなくて、危険なことになる前に見つかったから。

莉音 お兄ちゃん、見た目、大人しそうなのにね

悦子 ずっと手を握ってないとすぐ、どっかへ行っちゃうし

莉音 買い物行くと、いつも迷子呼び出してなかった？

悦子 した。常連すぎて恥ずかしかったわよ

莉音 だから、迷子センターの場所、把握してるのか！

悦子 フランフランには、いまだに一回で辿り着けないのに。

莉音 やっぱ、歳じゃん

悦子 (絵はがきを伊1枚手に取り) 絵を描くのが、本当に好きで

莉音 たまに授業、サボるんだよね

悦子 え！なに、それ！

莉音 やば。ま、いいか、学生の頃だし。電車の窓から見えた景色が気になって、途中で降りちゃってたみたい。

夢中で描いてて、夕方になってた、とかよく笑ってた。

悦子 聞いてないわよ！

莉音 言えないでしょ。

悦子 どうりで、保護者面談の先生の様子が、なんか変だと思った

莉音 成績落としてないから、先生も文句言いくかつたんじゃん

悦子 就職もしないで、世界中、放浪してるんだから、今も問題児ね

莉音 確かに！

悦子 就職？

莉音 なに？

悦子 就職活動って、してた？

莉音 大学の途中で旅に出ちゃったから、どうだろうね。

悦子 なんだか、その辺りのこともよく覚えてないのよね！

莉音 お母さん、その頃、仕事忙しかったから

悦子 そうだったかしら

チャイムが鳴る

莉音　はい

しばらくして、男が入ってくる

遥希　ただいま

悦子　遥希？

遥希　帰るってハガキ出した次の日にたまたまチケットが取れて、

悦子　遥希なの？本当に？

遥希　大袈裟だなあ。息子が帰ってきただけだろ

悦子　だって、あなた

莉音　ほら、突然帰ってくるから、こんな空気になるじゃんか

遥希　悪かったよ

悦子　遥希、今まで、どこに

遥希　どこって、行く先々からハガキ出してただろ。ほらそれ（散らばってる絵はがきに目をやる）

悦子　受け取ってたけど、でも

莉音 お母さん、今日のお昼、なに？

悦子 もうそんな時間？遙希、なに食べたい？

遙希 そうだな。オムライス

莉音 小学生かよ

遙希 久しぶりに帰ってきたんだから、いいだろ

悦子 オムライス

莉音 どうかした？

悦子 ううん、じゃ

立ち上がり、部屋から出ていく悦子

悦子が去ると、莉音は疲れたように座り込む

遙希は興味深そうに部屋を眺めている

莉音 あの、一応、確認なんですけど、お兄ちゃん？

遙希 すみません、違います

莉音 ですよ、いえ、いいんです。わかっています。こっちが頼んだんだから、絶対違っていてわかっているんです

けど、あんまりそっくりで

遥希 そっくり？

莉音 あの、これ。(スマホを見せる) 未来の顔がわかるってアプリです。これで高校生のお兄ちゃんの顔を

(スマホを操作して) ほら

遥希 似てる？

莉音 そっくりじゃん！です。

遥希 (笑う) 敬語、いいよ

莉音 すみません。それから、あの今回は無理を言って、来てもらって

遥希 なんか飲み物ある？(座って、カバンを探る)

莉音 お茶も出してない！

遥希 冷たいのがいいな

莉音 コーラ？

遥希 コーラはちょっと

莉音 冷蔵庫見てくる

莉音、キッチンへ

遥希はカバンから、スケッチブックと筆箱を出す

莉音 お待たせ（グラスが2個乗ったお盆を真ん中に置く）

遥希 なに？

莉音 三ツ矢サイダー

遥希 炭酸しかないの？

莉音 ジュースとかお茶ってなんか物足りなくない？

遥希 そうなんだ。ま、いいや。座って。

言われるまま座る莉音

遥希は莉音をみながら、スケッチを始める

莉音 私を描いてるの？

遥希 うん

莉音 え、やだ、恥ずかしいよ

遥希 動かない

莉音 はい

遥希 今まで、ずっと手紙やメールでしかやり取りしてなくて、きっと会うことはないんだろうって思ってたん

だけど

莉音　ごめん、いつもこっちの都合で

遥希　怒ってるわけじゃなくて。会ってみたかったし、会えるなら、描いて残したくて。あとで母さんにも頼めるかな。父さんは？

莉音　出張で、今日は

遥希　残念

話しながら、遥希は描き続けている

横目で様子を伺う莉音

少し無言の時間が続く

莉音　お兄ちゃんの名札がついた荷物が見つかった。近くに骨の一部が。

遥希　…そうか

莉音　荷物の確認とDNA鑑定の結果を聞きに、お父さんは長野へ行ってる

遥希　うん

莉音　山で遭難したまま遺体も見つからなかったから、お葬式もしてなくて。生きてるのか死んでるのかはつきりしないのはしんどいけど、でもはつきりわかるのも怖い

遥希 俺を呼んだのははじめをつけるため？

莉音 お父さんと結果がどうでも、もう終わりにしようって決めた

遥希、手を止める

莉音は春樹に頭を下げる

莉音 ごめんなさい

遥希 頭を上げて。俺も楽しかったから。

莉音 でも

遥希 大丈夫、ほんとに。最初は母さんを騙すようなこととしていいのかって思ったけど、正しい事実よりも嘘が必要な時もあるから。

莉音 そう、嘘なの、お兄ちゃんとの思い出は高校生で止まってるのに。この絵はがきを送ってくれているのは、本当はお兄ちゃんなんじゃないかって、いつの間にか、嘘と本当が分からなくなってる

遥希 莉音、大丈夫だから

莉音 本当に違うんだよね！遭難したけど、無事で、でも記憶なくして私たちのこと、忘れちゃってるとか

遥希 莉音

莉音 本当は、本当は

遥希 莉音、落ち着いて。

莉音 お兄ちゃん！

遥希は莉音を落ち着かせるようになだめる

遥希 ごめん。

莉音 ううん、わかってる。長い間、お兄ちゃんのふりをさせて、私たち家族のわがままに付き合わせてごめんなさい。旅先からたくさんの絵はがきを送ってくれて、ありがとう。

悦子 どういうこと？

莉音 お母さん！

悦子 遥希じゃないことぐらいすぐわかるのよ！
莉音 どうして

遥希 申し訳ありません、違うんです、莉音は

悦子 莉音？

莉音 違うの、はるきさんは悪くなくて

悦子 遥希さん？
莉音 違う、違うの！

はるき、莉音をかばうように悦子に向き合う

はるき はじめまして、春木祐介と申します。

悦子 あら。まるつきり嘘ってわけでもないのね

はるき はい

悦子 最近のおれおれは詐欺は電話かけてくるだけじゃなく、家に入り込むのかしら

莉音 やめてよ！私が頼んだの！お兄ちゃんのふりしてくれって

悦子 帰ってもらえますか

はるき その方がいいようですね。僕はこれで失礼します。

莉音 待って

はるき お願いがあるのですが、莉音さんを叱らないでもらえますか。

悦子 娘が迷惑をかけたみたいで、すみませんね。

はるき いえ、こちらこそ、不快にさせてしまって

悦子 息子に似てるから、なんだか怒れないわ

はるき それは、すみません

悦子 どうぞ（はるきを玄関へ案内する）

莉音 お母さん！

悦子、帰ってくる。手に持っていた封筒を置く。絵ハガキをながめる

悦子 お兄ちゃんが全然帰ってこないから？だから、身代わりを頼んだの？

莉音 お母さん、あの、あのね

悦子 そりゃ心配よ、全然連絡ないんだから。ほんつとにあの子は、もう

莉音 お兄ちゃんのこと忘れそうで

悦子 そうねえ。

莉音 お母さんのことも心配で

悦子 私？どうして？

莉音 昔の写真とか絵とか、しょっちゅう見てるし

悦子 見たっていいでしょ。（1枚の絵を取り）これは誰が描いたの？

莉音 それは春木さん。

悦子 これは？

莉音 お兄ちゃん

悦子 絵は区別つかないわ

莉音 うん

悦子 いいのよ。好きなこととして、楽しく暮らしてるなら

莉音 連絡しなくても？

悦子 離れてても元気なら、それだけでいいの。他はいいのよ。

莉音 うん。

悦子 お兄ちゃんは大丈夫！またひよこつと帰ってくるわよ。自分の偽物が来たなんて聞いたら、お兄ちゃん、泣くよ)

莉音 帰ってこないお兄ちゃんが悪い。自業自得って言ってやる

悦子 それは、本当に泣くかも

莉音 それなに？

悦子 (封筒をあける) これ、春木さんが。

封筒からは1枚の絵

莉音 私の誕生日に撮った写真？

悦子 遥希もいる

莉音 ほんとだ

悦子 家族写真みたい

莉音 …盛り過ぎじゃない？

悦子 ほんと、実物よりずっとかわいい

莉音 お兄ちゃん、かっこいいね。

悦子 大好きだから、そう見えるのよ

莉音 かっこいいもん！（スマホを取り出し、画面を確認し）ちょっと電話

莉音、ばたばたと部屋をでていく

悦子、家族の絵をじっと見つめ、しばらく動かない

やがて、ため息をひとつ

暗転

終わり